

◆国内現地研究会 2012★富岡企画(活動記録+評価集計結果)◆

企 画■関東の小都市を訪ねて ～富岡製糸場と中心街再生～

(都市と住宅を考える会+teku-tekuの共同企画)

日 時■2012年 5月13日(日) 10時～15時頃

コース■宮本町まちなか交流館～城町通り～富岡製糸場<見学>～銀座通り～高田食堂<昼食>～上町通り  
～宮本町通り～仲町まちなか交流館～富岡倉庫おかって市場～上州富岡駅(上信電鉄乗車)

参加者■◎塚原信孝+星 和彦+梶川義実、井手幸人、大竹 亮、重永真理子、二瓶正史、古里 実  
(以上8名、敬称略、◎コーディネイター)

企画主旨■国内現地研究会2日目は、世界遺産登録を目指している富岡製糸場(1872年建築、国指定重要文化財)のある富岡市を訪問し、歴史的遺産を活かしたまちづくりについて学びます。ご案内は、西洋建築史が専門の星和彦氏(前橋工科大学教授)にさせていただき予定です。日本の近代化の原動力となった製糸産業の遺産と、それを支えた地域の記憶を体験し、世界遺産とまちづくりの連携について考えてみましょう。



世界遺産登録を目指す富岡製糸場



レトロな看板建築が並ぶ富岡中心街

<参加レポート> 富岡のまちを歩く

前々から、世界遺産暫定リストに記載された富岡製糸場には行ってみたいかった。今回、富岡製糸場を見学するとの情報を梶川さんから聞き、これはいいチャンスだと思い参加させて頂いた。

1993年に日本に世界遺産が誕生して以来、現在まで16の遺産が登録されている。世界遺産予備軍の暫定リストに登録されるだけでも、観光客が殺到していると雑誌で読んだことがある。日曜日だしさぞかし混んでいるのではないかと思いを巡らしながら、前橋まで新幹線、そこから車に便乗させていただき富岡製糸場がある富岡市に向かった。東京から近い。しかし、駐車場に車を止め製糸場に向かって歩いていると観光客らしき人とすれ違いますが、これが月約2万人も訪れるまちなかという感じを抱いた。

●富岡製糸場

富岡製糸場ボランティア解説員の小須田弘幸さんに、富岡製糸場の成り立ちについての解説をして頂いた後、施設内をご案内頂いた。この地は、生糸をつくるのに必要な繭が確保でき、広大な工業用地と、製糸に必要な水が確保できることと併せ、燃料の石炭が近くから採取できたといったことから官営の製糸場の地として選ばれたとのこと。門を入ると、長さ100mを超える木造煉瓦帳壁構造の東繭倉庫が出迎えてくれる。この建物を設計した、オーギュスト・バスチャンはフランスから船工兼製図職人として来日し、横須賀製鉄所、富岡製糸所を建設した後、上海に渡りフランスの租界工部局で仕事をし、再び横浜に来て没し、外人墓地に葬られている。藤森照信は、19世紀半ば東アジアを舞台として活躍したこうした多くの技術者を「冒険技術者」と称し「日本近代建築」(上)に描いているが、なぜバスチャンが日本に戻って来たかについては言及していない。

●工女さんのまち

女性が働ける環境が整っていない時代、ここで働いていた工女さんは、今で言えば、先端技術に従事するキャリアウーマンといった感じだろうか? 中心市街地には、こうした工女さんゆかりの建物やエピソードをたどりながら、まち歩きを楽しめるようなルートが設定されている。マップを見ると、中心地に以前、映画館が3館もあったことが記載されている。このまちの全盛期、いかに賑わっていたかがよく分かる。当日の昼食は、「高田食堂」で工女さんが食べた?と言われる名物「工女さんカレー」をいただいた。こうしたまちの活性化に向けた努力はよくわかるが、世界遺産を目指すまちとして、富岡製糸場周辺のまちの資産をいかに保存再生していくか、といった方針があまり感じられなかったのは残念であった。(記録:井手幸人)

## <参加者の意見・評価>

### 1◆富岡製糸場について

評価:5.00 内訳:AAAAA

A：建築の美しさ、日本の煉瓦造技術など建物の質も素晴らしい。建築群としても見ごたえあり、生糸生産の技術もわかる。福利厚生の施設もあって、工場の理想をどのように考えていたかがうかがえました。

A：明治初頭の大変興味深い建物でした。来日したフランスの技術者の指導で建てたので、近代的建築手法と伝統的な日本の工法や考え方が折衷になっており、それがこの建物の最大の歴史的価値であり、また魅力になっています。とても優しい建物に感じました。

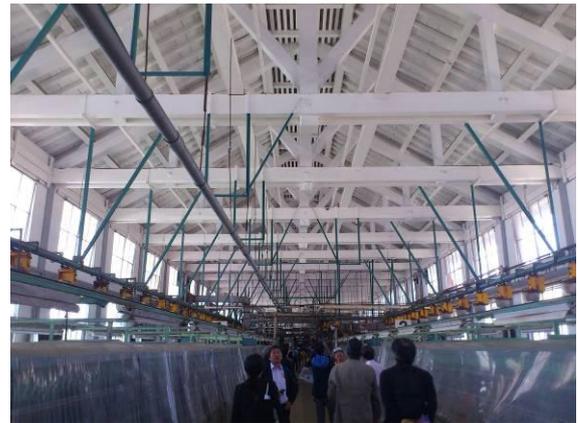
A：現存する様式工場の空間を体現できる貴重な施設。実演や機械の展示を見て歩くと、繭から糸ができるまでの技術の進化がよくわかりました。

A：建物自体も素晴らしく、また施設の全体構成が現在に残り、さらには製糸産業発展の歩みも学ぶことができた。明治以来、少し前まで現役で活用されていたことも、臨場感をもたらしているのだろうか。広い構内に入り、美しい建物に見とれながら、手間のかかる製糸の仕組みと工夫を体得するのは、とても贅沢な体験で、ここを訪れるだけで心の洗濯になるような場所である。

A：世界遺産に相応しい施設。日本の近代産業史上、欠かせない施設である。



富岡製糸場・東繭倉庫の木骨煉瓦造建物



富岡製糸場・繰糸場内部の木造小屋組

### 2◆富岡中心街について

評価:2.60 内訳:BBBBC

B：思った以上に興味深い建物が残っていました。文化財というより、製糸のまちの歴史を背景にまち歩きをすると、いろいろ見えてきます。

B：江戸期から昭和40年代までは繁栄した地方都市に見られる、かつての遺産が多かった。

B：官製の製糸工場があったにしてみれば小さな町だが、立派な町家やレトロな看板建築などが連なっていた。そのいくつかは保存改修したり、工女さんゆかりの商品を売り出したりしており、往時を想像して楽しめた。ただ、製糸場と直接関連した施設や遺構が感じられなかった（製糸場は塙の中で完結していたのか）のが、残念だった。

C：繁栄期を偲ばせる建物が幾つか残っているが、世界遺産として観光客を迎えるには周辺地区の再生・改修が必要ではないかと思いました。

B～C（ただしAになる可能性あり）：中心市街地はまだ手付かず状態と思います。



観光客に縁台を出す城山通りの菓子店



建物を上手に修景した宮本町の洋品店

### 3◆富岡中心街で印象に残ったところ

★宮本町通りに並ぶモダンな看板建築

★上町通りにあった立派な町家

★蔵づくりがかなり残っていること

★昭和のまちなみ

いりやま洋品店★上手に改修して商売を続けている。

いりやま洋品店★町家を美しく改修して商売を続けている。煉瓦の袖壁や裏の煉瓦蔵も素晴らしい。

いりやま洋品店★改修された店舗でご主人はまちづくりの中心人物。

いりやま洋品店★店主が気さくに話しかけてくれた。来訪者にはうれしい。

江原時計店★まちのランドマーク（修復してほしい建物）

カフェdrome★製糸場正門の手前左側にある町家を活用したカフェ。お洒落で、入りたかった！

高田食堂★昔なつかしい町の食堂である。ボリュームもあって美味しかった！

木造三階建の病院★木造三階建ての病院は珍しい！

★瀟洒な木造3階建て

★駐車場の集中配置

まちなか交流館★宮本町と仲町にあったが、いずれも駐車場と観光案内所＋土産物屋＋トイレを併設している。

製糸場の隣でなく、街中に分散して駐車場を設け、来街者が商店街を歩くようにしているのが良い。

街なかの緑のポケットパーク★空地に芝をはり木造の椅子テーブルが配されているホッとできるスペース。

富岡倉庫おかって市場★市役所前、上州富岡駅近くにある倉庫を転用したマーケット。日用品から地域の名産品まであり、品質が良く雰囲気も落ち着いていて、買い物しつつ癒された。

上信電鉄★小さなローカル私鉄だが、意外にスピードを出して早くて便利なのは驚いた。まちかどYOUプラザに展示されていた改修提案模型のように、駅がコミュニティ広場となれば面白い。

工女さん★各所に「工女さん」を題材にした遺構など（工女さんが食べたカレー）があり、製糸場と街との関係が感じられた。逆に言うと、工女さんしか街との接点がなかったのかもしれない。



製糸場正門近くの町家を転用したカフェ



駐車場を併設した宮本町まちなか交流館

### 4◆今後、世界遺産に登録される見込みの富岡製糸場を、どのように活かしていけばいいと思いますか。

●群建築、製糸の仕組み、発展、周辺の施設との産業連関、交通路、絹の道。現在の富岡製糸場での展示は、工場施設や建物が中心であるが、当時の国際情勢や国内情勢の中で、富岡製糸場がどのような役割を果たしたのか、その後、どのような変遷を辿ったのかを展示、説明すると、世界遺産としての意義が明確になると思う。

●鎖国から開国へ、封建制から近代君主制へ、家内制手工業から産業革命へ、内需から輸出へ、街道から鉄道へ・・・というような当時の一大変革が実感できることが必要。すばらしい建物や施設は現状保存。

●世界遺産になると建設当時の材料や技術に関するオーセンティシティを維持することが必要なので、今後、明治様式工場の創世記の建築技術の学習施設としても活用できるのではないでしょか。

●日本が近代化する状況が感じられる貴重な産業遺産だと考えれば、そのような観点から徹底的にこの建物の特徴を分かりやすく説明して、観光客に感心してもらうのが良いと思います。木造の柱と煉瓦の納まりなど、既に見せている展示もありますが、看板のデザインや書き方など、ちょっと寂しいものでした。

●すでに地元で取り組んでいるボランティアガイドさんの活動、工女さんにちなんだスポットのPRなど地元の力を活かして発展させる。『工女哀史』で語られる明治の産業ですが、意気高く理想を持って新しい産業創設に取り組んだ歴史をきちんと評価したい。日本人の技術を誇りを持って世界に伝えることができると思います。

## 5◆また、世界遺産登録を受けて、富岡中心街はどのようなまちづくりをしていけばいいと思いますか。

- 富岡駅からの導線、まちなか交流館からの導線を中心に、来街者が回遊できる要素をちりばめると、賑わいは増すと思う。外国人来訪者の事を考えると、富岡駅からの英語表記が必要だと思う。
- 既にそのように意識した観光方針（まちの見せ方）とも見受けられますが、女工さんの生活などを通して、当時のまちの生活者の観点から町や建物の歴史を紹介すると、観光客が興味深くまち歩きができる。
- 女工さんの生活史を体現できる施設等が復活されるといいですね。
- せっかく観光客が中心街を歩くように駐車場が配置されているので、世界遺産の街にふさわしい外観と内容を備えることが必要。古い建物の保存・改修、空き地の修景・活用を進めるとともに、住民も観光客も楽しめるような昔からあるものの良さを活かした商売の工夫が求められる。歩行者優先の道づくりも。
- 蔵造りを活用し、明治の記憶につながるまちなみを再現する。昭和のまちなみも。中心市街地に車を入れない駐車場計画。

## 6◆その他、今回の企画に対する感想など

- 大変興味深い企画でした。製糸工場の関連施設が周辺にあるとお聞きしたので、次回はそうした施設もあわせて回り、当時の産業と地域との関係を味わってみたいと思いました。(I・Y)
- 教科書に必ず出ている富岡製糸場ですが、『目からうろこ』でした。中高生にぜひ見て日本史を体感してほしいと思います。修学旅行のコースにも組み入れて。(S・M)
- 国内各所にシニアのボランティアガイドが多いですが、よく勉強していると思います。今回、都立大学OBにガイドをしていただき、感謝いたします。かねてより富岡は訪問したいと思っていたので、大変良い機会でした。(K・Y)
- 有名な富岡製糸場を訪れることができ、しかも須和田さんの詳しい解説付きで、とても充実した見学でした。絹糸の材料は、植物でなく動物から生まれたものであり、製糸がきわめて複雑かつ繊細な過程であることを認識しました。また、富岡の中心街も、とても風情あるものでした。塚原さん、星さん、ありがとうございました。(O・R)



富岡製糸場に至る城山通りの町並み



富岡製糸場／西繭倉庫の前にて